

What's New?

YAコーナーに新しく
入った本をご紹介します！



『**星天の兄弟**』 せいてん 菅野 雪虫 / 著 遠田 志帆 / 装画
岡本 歌織 (nextdoor design) / 装幀 東京創元社

ある王国の小さい村に代々続く学者の家がありました。当主の紅海日(ホンハイル)は高潔な人物で知られ、賢い兄ハソクと美しい弟ハリヨンの2人の息子がいました。ある時、父は第二王子の家庭教師に招かれますが、第二王子に謀反の疑いがかかり、王子を焚きつけた罪で投獄されてしまいます。突如、罪人の子という立場に落とされた兄弟は家族を思いやりながら、それぞれの道を歩み出します。『天山の巫女ソニン』シリーズで知られる著者の書き下ろしファンタジーです。



『**しんどい時の自分の守り方**
10代から知っておきたいメンタルケア』
増田 史 / 著 ナツメ社

「学校に行きたくない」「何となく心がモヤモヤする」…そんな風に感じた経験はありますか? 「しんどい」と感じるのは珍しいことではなく、誰にでも起こる可能性があります。この本ではその「しんどさ」の理由を知り、体や心の状態を少しでも和らげるスキルを解説しています。ぜひ一度試してみたいかがでしょう。

◆本の表紙掲載については、出版社の許諾を得ています
◆表紙写真は「フリー素材ばくたそ」(www.pakutaso.com)より

長岡市立地域図書館 (7館)

- 互尊文庫 TEL35-7981
- 西地域図書館 TEL27-4900
- 南地域図書館 TEL30-3501
- 北地域図書館 TEL22-7100
- 中之島地域図書館 TEL61-2165
- 寺泊地域図書館 TEL75-5159
- 栃尾地域図書館 TEL53-3005

☺お問い合わせは北地域図書館へ

〒940-0876 長岡市新保町 1399-3 mail:lib.kita@nscs-net.ne.jp
図書館ホームページ <https://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp>

編集・発行 / 指定管理者 株式会社図書館流通センター (TRC)

YOUNG ADULT NEWS

YAN Winter 2021

2021.12.1 発行
長岡市立図書館 地域館
中高生向け 図書館だより

vol.82
テーマ
動物



「朝日に照らされる霧氷と雪(雲取山)」 photo by Redsugar

『**スタンド・バイ・ニャー**』 岩合 光昭 / 著 辰巳出版

世界各国の美しい風景とともに、人により沿って生きる可愛い猫たちの姿がおさめられています。気ままにのびのびとふるまう姿はもちろん、信頼した主人だけに見せるくつろいだ表情の猫たちの姿も、たまらない癒しを与えてくれます。

タイトルの「スタンド・バイ・ニャー」は、そばにいて支えになって欲しいとの願いからつけられたとのこと。国はちがっても、猫と人とお互いを支え合い、慈しむ気持ちが伝わってくる、心がほっこりとする写真集です。

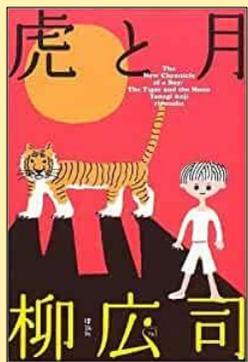


ヤングアダルトとは、12歳~18歳くらいのみなさんのことです。

2021年冬号 Vol.82

テーマ 動物

2022年の干支は「寅」。もうすぐ干支が変わるということで、冬号のテーマは「動物」です。最近は動物の変わった生態を紹介する本が人気ですが、YA コーナーにも様々な動物の本をそろえています。ぜひご覧ください。



『虎と月』

柳 広司 / 著 理論社

中島敦の『山月記』。高校生は教科書で読んだことがあるかもしれません。この本は、その『山月記』をモチーフに書かれた作品です。虎になった父の謎を解き明かそうと旅に出た主人公。行く先々で見聞きするものすべてがその“謎”の伏線になっています。父は本当に虎になってしまったのか!? 主人公の目線で物語は進み、最後は謎解きを受け、素敵な余韻を感じさせてくれる小説です。



『パンダ飼育係』 阿部 展子 / 著 KADOKAWA



白と黒の模様が可愛いパンダ。最近では、上野動物園のパンダの赤ちゃんの名前も決まり、人気の高い動物です。でも、パンダの詳しい生態を、あなたは知っていますか? この本は、子どもの頃からパンダが大好きだった著者が、どのようにして「パンダ飼育係」の仕事に就いたのかを綴ったものです。パンダのことを知ると共に、好きなことを仕事にする、夢を実現する、その一歩を踏み出す勇気をもらえる本です。



『ぼくたちの骨』 榎崎 茜 / 著 講談社

足を痛め、走りたくても走れない日々を送る中学3年陸上部の千里。子どもの頃によく通った動物園が休園すると知り訪れると、疾走なんてできそうもない不格好な姿にされたチーターの剥製を見つけます。その姿と自分を重ねてしまった千里は、本来の姿に直す手がかりを探し始めます。博物館の剥製の修復作業に参加すると、博物館で動物の死体を収集しているという話を聞き…。身近な動物たちの瞳や表情を、じっくり見つめながら接してみたくなる1冊です。



みずきが小学5年生の時、いつも通りに「行ってらっしゃい」と言ってくれた大好きなお父さんが仕事に倒れ、そのまま亡くなってしまいました。悲しみのあまり心を閉ざし、学校へも行けなくなってしまったみずきは、その年の夏休み、アメリカに住む伯母のもとで傷ついた動物の保護施設のボランティアをして過ごすこととなります。様々な事情でひきとられる動物たちや施設にかかわる人々、伯母との生活を通して、みずきが心と家族の絆を見つめ直す、再生の物語です。

『いつも心の中に』

小手鞠 るい / 作 丹地 陽子 / 装画 金の星社



『チェシャーチーズ亭のネコ』

カーメン・アグラ・ディーディ / 著 ランダル・ライト / 著
バリー・モーザー / 絵 山田 順子 / 訳 藤田 和子 / 装幀 東京創元社

のら猫のスキリーは、ネズミが嫌いでチーズが大好き。ある日、英国一チーズがうまいと評判のバブ「チェシャーチーズ亭」でネズミを獲る猫を探していると知り。その店で賢いネズミのヒップと出会い、ある取引を交わして店のネズミ獲りとして雇われることに成功します。少しずつ友情を育んでいく2匹は、やがてヴィクトリア王朝を揺るがす大騒動に巻き込まれ…。



古くからロンドンに実在する「イ・オールド・チェシャーチーズ亭」を舞台に、個性豊かな動物たちと、『クリスマス・キャロル』で有名な大作家ディケンズや女王陛下までもが登場し大活躍する楽しいお話です。猫とネズミと人間の、奇妙であたたかな友情の結末を、ぜひ見届けてください。



保護犬のラッキーは、不運なことに交通事故にあいます。住んでいた鹿児島県徳之島には犬猫専門の獣医がおらず安楽死を勧められ、飼い主の島田さんは苦悩します。けれど犬用の車いすがあることを知り、県外で手術をしリハビリを経て時間をかけて車いすはラッキーの体の一部となりました。

小林照幸



The Story of Lucky the Wheelchair Dog

日本では年間約10万匹以上の犬猫が殺処分されています。ペットを最後まで責任を持って飼育することの大事さや、命の大切さが痛切に伝わってくる1冊です。



小林 照幸 / 著 毎日新聞出版

『車いす犬ラッキー 捨てられた命と生きる』